

歴史が調べられました。その結果、日本の歴史のなかで最も古いとされている旧石器時代の遺跡として、小栗田の館清水遺跡が発見されました。ここからはたぐさんの石刃が発見されました。また一九六七（昭和四十二）年六月、小栗田原開田工事のとき、地下一・五メートルの赤土の層に深くくいこんだ炉の跡が発見されました。

この遺跡は小栗田原台地の斜面にあつて豊富な清水のわく土地ですから、古くから人間が住んでいたと想像されます。

縄文時代

六ページの写真の建物は真人町の大平で発見された縄文時代の住

の家

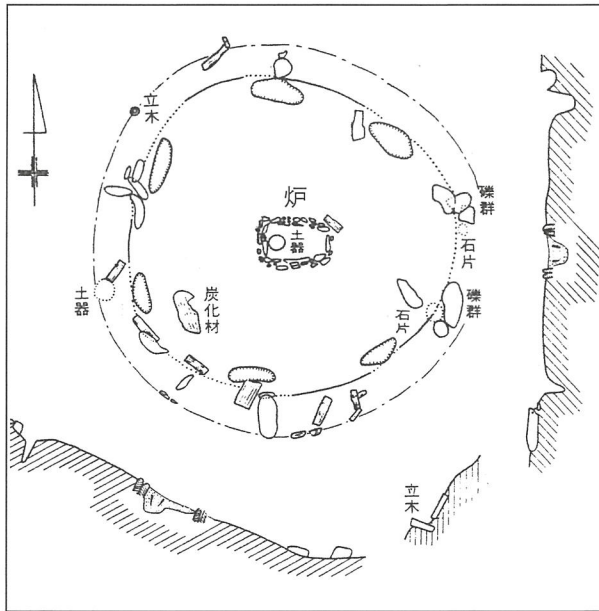
居跡を復元したものです。かやぶきのまるい形の屋根で、小さな入

口が東側に一つあるだけです。中にはいると地面より八十センチくらいほられた床面があります。排水口もつくられました大きな炉もあります。煙がへやにたちこめないように西側に煙出しの小窓をつくり、添木二本を使って結び、強くして大雪にたえられるようにくふうされています。

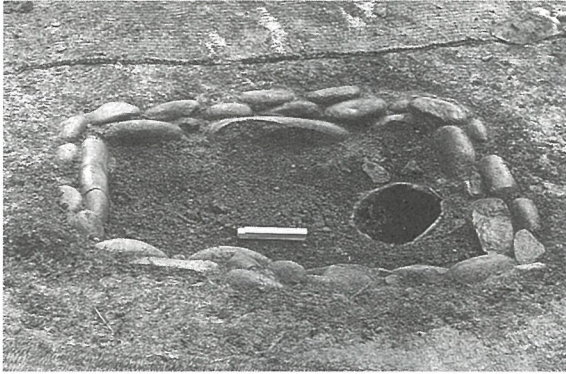
この建物は二〇〇七（平成十九）年まで山本山の市民の家の前にありましたが、老朽化のため撤去され、今はありません。



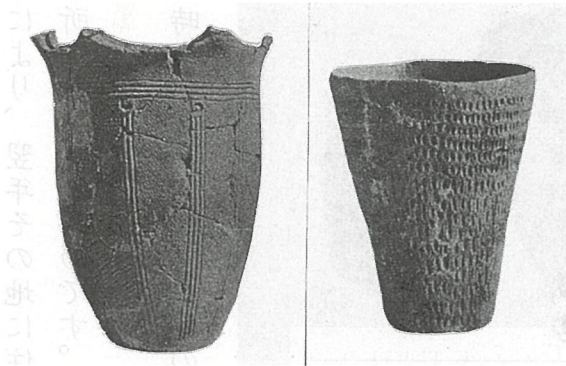
大平住居跡を復元したすがた



大平遺跡^{いせき}第一号住居跡^{あと}



大平住居の^{るあと}炉跡



大平から出た^{ふかばち}深鉢

大平の^{おおひら}住居跡^{あと}は信濃川左岸の段丘の南斜面で日当たりがよくながめものない清水がわき、排水もよい場所です。

前は信濃川に面し、うしろには広い土地がひかえ、食物を手に入れるにはよい

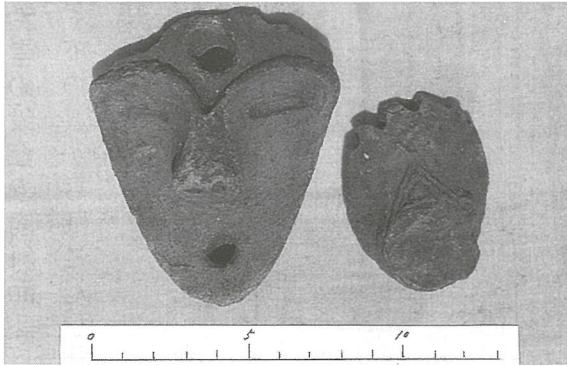
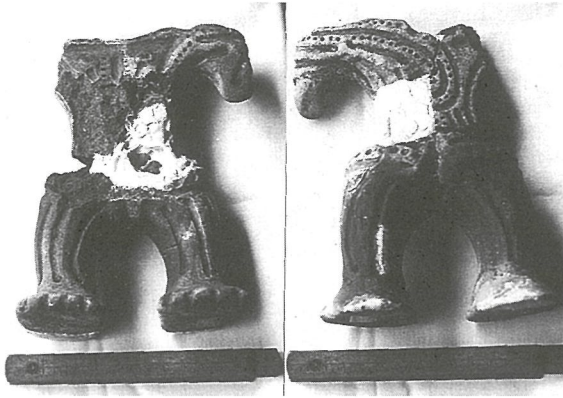
場所です。

一九五六（昭和三十一年）年八月小千谷市教育委員会が中心となって遺跡の発掘調査を行いました。出土品などから縄文中期（約四千五百年前）の遺跡であることがわかりました。

地元の市之沢集落の強い要望により、翌年その地に住居跡が復元されました。先住民の住んだ住居が同じ場所に建てられたのです。それをみると遠い縄文時代の生活がしのべれます。

芋坂の土偶

大平遺跡と同時代のものとして大平の近くの芋坂からは、たくさん



芋坂から出た土偶

さんの土偶が発見されました。ごらんなさいこの土偶を。なんとそぼくなものではありませんせんか。顔の形をしたものと、人からだ全体をかたどったものがあります。この土偶はなにに使われたか



三仏生の遠景

は不明ですがそのころの人たちが願いをこめてつくったものと思われれます。

三仏生さんぶしょう

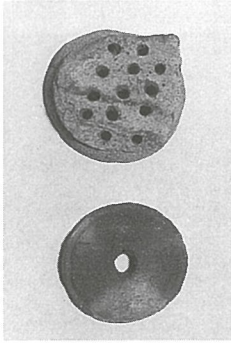
三仏生の「タカハツラ」・「清水上しみずがみ」は

遺跡いせき

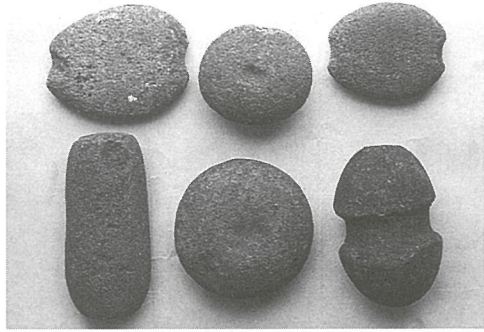
明治のころまでは雑木などの森林でした

が、大正時代になってここが開こんされたときに石器や土器がたくさんあらわれました。三仏生の細貝嘉明と長岡の考古学研究家の近藤勤治郎のふたりは、「これは小千谷の先住民の住居跡あどを証明するものであり、遺物いぶつは貴重な存在である。」と考え、熱心に集めました。それらの石器や土器は、種類も多く学問的にも貴重なものが多かったために「三仏生式土器」と名づけられました。

いろいろな人が遺跡いせきを掘りかえました。また開発によってもこわされ、このままでは遺跡保存はむずかしくなってきました。そこで本格的な発掘調査はっくくさ



三仏生から出た土器の底



三仏生から出た石器

が計画されました。

長岡市立科学博物館が主体となり、長岡市や小谷市の教育委員会が協力し、一九五五（昭和三十）年八月三日から九日の一週間、発掘調査が行われました。この調査で「三仏生式土器」やたくさん石器が発見されました。このことから縄文時代にこの地で人々が生活していたことがわかりました。

この場所は信濃川がつくった低い河岸段丘上にあつて信濃川とは約十五メートルの高さのちがいがあがり平らな豊かな土地です。

現在の信濃川の流れも縄文時代と大きな変わりはないだろうと考えられますが、当時は水量も豊かでした。大型の石の錘おもりが多く出たことから鮭漁さけもさかに行われ、生活条件もよかったことが考えられます。